

令和 2 年度 調査研究報告書

自尊感情とレジリエンスの
向上に着目した、
育児期女性に対する
支援体制構築に向けての基礎研究



特別区長会調査研究機構

Kuchokai
Institute for Research and Study

はじめに

特別区23区長が組織する特別区長会は、平成30（2018）年6月15日、特別区長会調査研究機構を設置しました。

その趣旨は、特別区及び地方行政に関わる課題について、大学その他の研究機関、国及び地方自治体と連携して調査研究を行うことにより、特別区長会における諸課題の検討に資するとともに、特別区の発信力を高めることにあります。

平成31（2019）年4月から、各区より寄せられた特別区の行政運営に資する課題について、学識経験者・特別区職員が研究員となり、プロジェクト方式で調査研究を開始しました。以降、特別区の課題解決を中心に据えながら、広く他の自治体の課題解決の一助となること、さらには国及び他自治体との連携の可能性も視野に入れ調査研究を行っています。

本調査研究報告書は、令和2（2020）年度の1年間の調査研究成果を取りまとめたものです。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の環境変化に伴い、特別区の行政及び区民生活は大きな影響を受けました。このことは、本調査研究においても今後の展望を議論するなかで俎上に上る一方、オンラインによる会議の開催やインタビューの実施など、新たな手法を導入する契機ともなりました。

調査研究の成果が特別区政の関係者のみならず、地方自治体の皆様、学術研究の場など多方面でご活用いただけると幸いです。

最後に、調査等にご協力いただいた地方自治体関係者の皆様、民間企業の皆様をはじめとして、報告書完成までにご協力をいただきました全ての方に深く御礼申し上げます。

特別区長会調査研究機構

令和3年3月

目次

第1章 調査・研究にあたり

- 1 研究目的……………8
- 2 男性の育児への参画をめぐる国の動向……………8
 - (1) 法・計画の動向
 - (2) 男性の育児参画が求められる背景・男女共同参画の社会課題
- 3 都及び特別区の現状……………17
 - (1) 人口・就学前児童数
 - (2) 出生数・合計特殊出生率
 - (3) 男性の育児参画をめぐる都の関連調査
- 4 地域特性からみる現状の課題……………25
 - (1) 板橋区の現況
 - (2) 北区の現況

第2章 育児期男性の置かれているリスク状況

- 1 心理的リスク……………70
 - (1) 労働ストレス
 - (2) 自殺リスク
 - (3) 育児期男性の心理特徴
- 2 社会的・家族的リスク……………72
 - (1) 近代家族における性別役割分業
 - (2) 「父親」の再発見
 - (3) 「父親」になれない男性たち
 - (4) 父親の仕事と育児
 - (5) 育児期男性の抱える社会・家族的リスクのまとめと課題

第3章 子育て中の男性に向けたアンケート調査の概要

- 1 調査の目的……………80
- 2 調査の内容と方法……………80
 - (1) 調査の設計
 - (2) アンケート調査の方法
 - (3) 調査期間
 - (4) 回収結果
 - (5) 調査項目
 - (6) 倫理的配慮

第4章 調査結果の分析

I 回答者の基本属性	84
1 デモグラフィック要因	84
(1) 年齢	
(2) 学歴	
2 家族の状況	85
(1) 同居家族人数と同居者	
(2) 子どもの人数と年齢、健康状態、在籍状態	
(3) 配偶者、パートナーの年齢と仕事	
(4) 現在就労していない配偶者・パートナーの退職時期、退職理由	
3 本人の仕事について	100
(1) 現在の就労状況	
(2) 長子の妊娠時の育休の状況	
(3) 昨年の世帯収入と自己収入	
4 家事・育児とサポート、ワークライフバランス	105
(1) 子育てで得られるサポート	
(2) 家事・育児分担の割合	
(3) ワーク・ライフ・バランス	
II 心理的指標について	107
1 自尊感情	107
2 人生満足度	109
3 レジリエンス	111
4 親性尺度	114
(1) 親役割の状態	
(2) 子どもへの効力感	
(3) 親役割以外の効力感	
5 性役割についての態度	120
III 育児期男性の心理変数の関連要因	125
1 自尊感情	125
(1) 年齢	
(2) 学歴	
(3) 就業状況	
(4) 育休の状況	
(5) 家族の状況	

2 人生満足度	130
(1) 年齢	
(2) 学歴	
(3) 就業状況	
(4) 職場環境	
(5) 家族の状況	
3 レジリエンス	135
(1) 年齢	
(2) 学歴	
(3) 就業状況	
(4) 職場環境	
(5) 家族の状況	
4 親役割の効力感	140
(1) 年齢	
(2) 学歴	
(3) 就業状況	
(4) 職場環境	
(5) 家族の状況	
5 子どもへの効力感	145
(1) 年齢	
(2) 学歴	
(3) 就業状況	
(4) 職場環境	
(5) 家族の状況	
6 親役割以外への効力感	150
(1) 年齢	
(2) 学歴	
(3) 就業状況	
(4) 職場環境	
(5) 家族の状況	
7 性役割平等主義的志向	155
(1) グループ分類	
8 自由記述から見られる父親像・母親像	159

IV 行政による講座への期待	166
(1) 託児付きで実施してほしい講座	
(2) パートナーに参加してもらいたい講座	
(3) 講座などの情報発信の希望	
第5章 行政が提供できる支援	170
1 千代田区「家庭教育学級」	171
2 文京区「ぶんきょうプレパパ・ママ講座」	172
3 大田区「小学生と父親向け講座」、「幼児と父親向け講座」	173
4 中野区「地域育児相談会」	174
5 杉並区「男女平等推進センター講座」『夫婦の力を磨いて賢い子どもを育もう！～父子手帳・3歳からの性教育・パパの料理』	175
6 豊島区「男性向け講座『パパと子どもの料理教室～ママは中国ヨガでリフレッシュ～』」	177
7 板橋区「いたばしパパ月間」	178
8 足立区「足立区男女参画プラザ主催イクメン・イクジイフォトコンテスト」	179
9 東京都「働くパパママ育休取得応援事業」	180
第6章 まとめと展望	184
《資料編》	186
アンケート調査票	
研究体制、活動実績	